
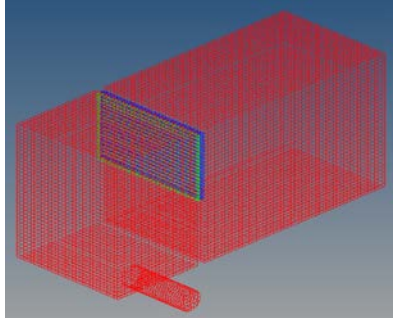
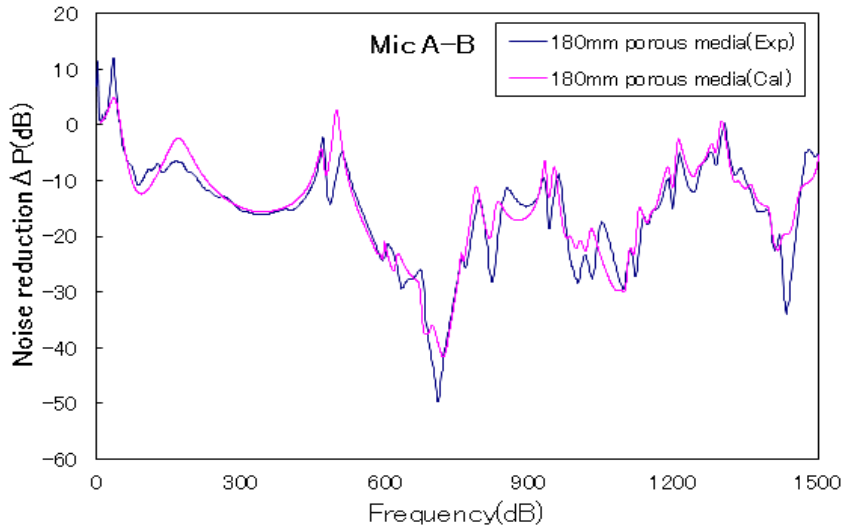


|  |   |
|--|---|
|  | Dynamics and Design Conference 2015   |
|  | 多の多体をしたときの自動車車内の減解  |
|  | ○ 証平 (京大)、 (京大)、山口 (大)  |
|  | <p>自動車のアッパーバックリをしたテストピース (Fig.1) を作成し、ウレタンとフェルトをした場合の側から、車側への、性能の果化を計により確認した。</p> <p>FEモデル (Fig.2) を作成し、ウレタンとフェルトは内部算気を度と体性でモデル化し、算間のモード減に対する要の減からモード側係数を求めた。解度検証実を行い、分な解度であることを確認した (Fig.3)。解モデルのウレタンとフェルトのさ果黒して再計算を行い、1/3オクターブ数でどのさが最も減しているか確認した。</p>   |
|  | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>Fig. 1 Experimental setup</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Fig. 2 FE model</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> |